

加藤嘉明時代は、長沼城代、青木右エ門秀昌。  
寛永十四年、一国一城制によって、仙道の城館残らず破却となる。波乱多い長沼城もこの時破却となつた。  
〔「長沼名義考」・「長沼城主考」・「江原郷藤沢長沼古館の辯」より〕

## 吉田松陰と勢至堂宿

勤王の志士で幕末の思想家として有名な吉田松陰（通称寅次郎）が、江戸亡命中、勢至堂に宿泊している。

このことは、松陰の書いた、水戸より勿来に、勿来より、白河を経て若松に至り、江戸帰還までの遊日記である『東北遊日記抄』に記されている。

日記は嘉永四年十月江戸を出発し、同五年四月江戸にもどつた約五ヶ月間のもので、宮部鼎蔵が同行した。

勢至堂には、嘉永五年一月二十八日に投宿し翌二十九日会津に向け出発している。

二十八日午前白河をたつて、飯豊で昼食をとり、牧ノ内、長沼を通り、勢至堂に至る道程を記している。この日は朝は



勢至堂部落